

令和4年度第1回富山県公立大学法人評価委員会 議事録（概略版）

- 1 日時 令和4年7月12日（火） 13:30～15:00
- 2 場所 富山県立大学射水キャンパス 9階特別会議室
- 3 出席委員
 - ・金森 俊幸 [(一社)富山県機電工業会会長・田中精密工業(株)相談役]
 - ・林 幸秀 [(公財)ライフサイエンス振興財団理事長] ※委員長
 - ・福田 敏男 [名古屋大学名誉教授、客員教授]
 - ・藤重 佳代子 [(株)マーフィーシステムズ代表取締役社長]
 - ・堀 仁志 [堀税理士法人代表社員・公認会計士]
- 4 会議の概要
 - ・司会が開会を宣し、県理事・経営管理部次長より開会の挨拶
 - ・司会より、林委員長に議事の進行を依頼し、以後の進行については委員長が行った。
 - ・委員長より、(評価の対象である)法人が本日の委員会に最後まで同席することについて、委員の了承を得た。

議事1 令和3年度の業務実績に関する評価について

<事務局説明>

資料1に基づき、令和3年度の業務実績に関する評価(案)について説明

(委員長)

本案についてのご意見をお願いしたい。

(委員)

自己評価の評価Ⅳ及び評価Ⅲについて、どのような判断基準でつけているのか。

(法人)

Ⅲはおおむね計画どおり達成しているということで、定量的なものに置き換えることが可能であれば、達成度80%以上90%未満、Ⅳについては計画を上回って実施していて、これも定量的に換算できるものであれば達成度90%以上がおおよその目安となる。

また、第2期中期計画における取組みの目標に対して、ほぼ記載してあるものと同様あるいは計画どおりというものはⅢにしている。定量的な話になかなか換算できないが、取り組んだ充実度ということを大学なりに自己評価したということになる。

(委員)

企業であれば、計画を立てたときにはできる限り数値目標を決める。数値目標を設定されていかれたらいかがかと思う。

(法人)

できる限り、定量的なものにできるものはやっていきたい。

(委員)

大学側が非常に精力的にやっておられるということがよく分かる。新しい建物もでき、知名度もどんどん上がっていると思う。

(委員)

財務諸表の概要の資料2-1の中の損益計算書について。教員人件費が18億5,500万円、前年対比で1億6,300万円の減となっている。どんどん拡充している中において、教員人件費がこれだけ大きく前年対比で減になっているのはなぜか。

(法人)

令和3年度から、県からの運営費交付金について、採用できなかった教員分相当については交付しないということになった。県立大においては教員13名分の応募がなく、その分がマイナスとなっている。

(委員)

教員が確保できなかったということになるが、現場としてはその現実をどのように見ているのか。

(法人)

未充足分については、既存の人員で分担して業務を進めているが、この状態はあまりよくないと考えている。

公募の手法については、これまでは応募があるのを待つようなやり方だったが、これからはいい人に公募に参加してもらうように取り組んでいきたい。

これまで日本では博士課程を卒業した学生がある程度潤沢だったが、近年はどんどん減っており、教育の世界においても、次の世代を担う若者を確保するのは非常に大変な思いをしている。

(委員長)

私の知る範囲でも、理研（理化学研究所）にしても J S T（国立研究開発法人科学技術振興機構）にしても任期付で働いている人ばかりで、ドクターを持っていても全く就職できない。

県立大の募集は工学部あるいは理学部の卒業生になるはずで、そういう人たちは余っているような気がするが、なぜ来ないのか。

(法人)

一つには、地方創生にも関係すると思うが、強い大学、強い研究所で競争的資金を取って、そこで雇用するといった場合が多い。あともう一つは、私たちの P R 不足というか、有能な若い教員、研究者を確保するという努力が足りなかったかなど、反省している。

(委員長)

財務関係で何かあれば。

(委員)

よくやっていると思う。目的を持ったお金の使い方、節約すべきところは節約をした予算執行をしていると感じ取っている。

(委員)

第3の地域貢献に関する項目について。新型コロナウイルスの影響もあって、外国からの留学生の数が増えなかったという点と、いろんな企業の課題を解決する活動が増えているという点の両面があり、これをどう評価すべきかちょっと迷っている。

今年以降、コロナウイルスの件が落ち着いた場合は、海外との連携、留学などが伸びていく傾向にあるのか。あるいは既にもうそのような傾向は見えているのか。

(法人)

海外から大学に来る学生の中で、文部科学省のいわゆる奨学金をもらう学生が優先的に大学に入ってくるということはあるが、年間30件台くらいかと思う。それ以外の海外の学生が入る機会というのは、ビザを取るとか手続を取るとかで非常に時間がかかって入りにくく、今は非常に低迷しているという状況になっている。

それから、地域連携、地域貢献については、地域連携センターを中心に、非常に頑張っている。さらにDX教育研究センターにおいて、いわゆる地域内のDXを推進しようと。DXとは、1つの会社だけでなく、いろんな会社が連携して社会変革をすることだと理解しており、まずは顔見知りになって、そこから課題をどうやって解決していくかという次のステージに入っていこうということで、アソシエイト会員を3月から募集し、今は約100社ぐらいとなっている。それを通してさらに地域貢献を進めていこうと思っている。

(委員)

私としては、コロナ禍において非常に努力して頑張っておられるのではない

いかなと思った。

(委員長)

大学としては研究、論文の実績データを見ると、よくやっている判断でき、評価したい。外部資金についても、ERATOの分がなくなった後も、ある程度の水準を維持しながら、最近では増加しており、評価したいと思う。

その上で幾つか質問したい。まず論文数について、ERATOをやっておられた先生の論文が相当大きな寄与をしていると思うが、この辺はどうか。特定の人に偏っているより、できるだけいろんな人が出して、それぞれの評価が上がっていけば非常にいいのだが。

(法人)

一番はERATOをやっておられた先生だが、それ以外にも生物、薬品の先生もおり、最近ではコロナウイルスが下水に流れたときにどうやって評価するか、というものも取り上げられたりしており、全体としてかさ上げされている。

(委員長)

もう一つ、今度は外部資金の獲得について。科研費は相当件数が増えてきているが、あまり金額は増えていない。これは金額の少ない案件が増えているということかと思うが、何か理由があるのか。

(法人)

科研費を出すJSPS（日本学術振興会）の方針として、薄く広く出す傾向があり、ある程度それに沿ったものになっている。

(委員長)

自己評価に対する意見は概ね各委員から発言があったかと思うが、これからは、これまでの質疑を踏まえて、全てAとなっている仮置きの評価について議論を行いたい。

(委員)

第1の教育に関するもの、それから第2の研究に関するものについては、AからSにしてはどうか。

(委員)

第5の財務について、ぜひSに格上げをしていただきたい。結果的に109件から令和3年度では130件、採択件数がきちんと増えている。そういう取組みをきっちり行い、確実に外部資金を獲得し、これを継続していることを高く評価したい。

(委員)

特に異議はない。教育、研究、あと財務に関しても非常によくやっておられるなど感じている。

(委員)

4番の業務運営の改善及び効率化について、これは数字では表れない部分だが、先ほどの教員の欠員とか、いろんな価格が上がってきているが数字に表れてこない部分など、業務運営上、困難な場면을上手に運営されてきたのではないかと思ったので、ここはSのほうがいいのではないかと思う。

(委員長)

それでは、意見を合わせると1番、2番、4番、5番がSに格上げ、3番、6番、7番はAのまま据え置くということになるが、いかがか。

(委員)

賛成する。これだけよく県の大学としてもやっている。未来志向であり、戦略的などころがよい。

(委員長)

私も基本的には皆さんの意見に賛成。それでは、1番、2番、4番、5番については、評価委員会としてSと認定したい。それから、3番、6番、7番についてはAのままということで、これも評価委員会として確認をしたというふうにしたいと思うが、いかがか。

(各委員)

異議なし。

(委員長)

では、これを念頭に事務局において記述式のものを作ってください、次回8月の委員会で議論したい。

議事2 役員報酬等の支給基準変更について

(委員長)

地方独立行政法人法の規定上、公立大学法人の役員報酬等支給基準の変更があった場合、これを設立団体の長に届け出、公表するとともに、評価委員会は基準が適切なものであるかどうかについて意見を申し出ることができるということになっている。それでは、説明をお願いいたします。

<事務局説明>

資料3などに基づき、役員報酬等の支給基準変更について説明

(委員長)

何かご意見等はあるか。

(委員)

全国の同様の公立大学において、学長への報酬形態や役員報酬の月額制を採用しており、全国レベルに合わせるという趣旨での提案であり、特段問題がないと考える。

(委員長)

それでは、特に問題ないということで、評価委員会としては妥当であるということとしたいがよろしいか。

(各委員)

異議なし。

(委員長)

それでは、そのように決する。

では、本日の議事はこれで終了する。